
千年のヒストライズ

来戸 述

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

千年のヒストライズ

【Nコード】

N0816Z

【作者名】

来戸 述

【あらすじ】

英雄に怯える赤毛の少年。自分を偽り続ける王女。己の力を試したい青年騎士。野望を胸に秘める海賊の男。悲しみから逃げる魔族の女性。それぞれの思いが千年の時を越え、ひとつの物語を紡いでいく。

〜001〜 (前書き)

ファンタジー。とりあえずファンタジー。

なぜファンタジーなのか？ そこに幻想が広がっているからだ！

1日1ページの更新を目標に、力の続く限り頑張ります。

暖かなランプの光を受けて、少女の額で真つ赤なルビーがきらりと輝いた。

少女は化粧台に取り付けられた大きな鏡の前に立ち、目を細めてその輝きを見ていた。

いや、そうではない。少女の虚ろな目は、輝きを映し出す鏡を見ていた。

曇り一つない綺麗な鏡。こんな素晴らしいものをつくるのにいったい何人の職人がいったいどれだけの時間をかけて磨き上げたのだろう。そして、それにはいったいいくらのお金がかけられたのだろう。

わたしはそんなお金、少しも払ったことがないの??

少女は額に手をやると、ティアラの傾きを調整した。しっかりと自分を『飾らなければ』いけない。そう教えられて育った。たった今誰かの首筋を切り裂いて噴き出した鮮血のように紅い宝石を少女の細い指先がそつと撫でた。

こんなわたしでも、一所懸命に飾れば、価値が出てくるのかな??
何度となく繰り返してきた疑問が、少女の脳裏をよぎる。

シエリア・ローズ・ブラッドリイ。それが少女の名前だった。

両親が古い師と相談してつけた名前。紅玉の国を象徴するに堪えられる立派な名前。だが、少女はその名前以上の価値を自分自身に見出せたためしなかった。

生まれてきて十六年と四ヶ月。少女は『シエリア・ローズ・ブラッドリイ』という名前の人形か、もしくは『シエリア姫』の値札がつけられた置物でしかなかったのだ。

「……うつん、違う」

少女は鏡の前で小さく頭を振った。

かつて一人だけいたではないか。自分のことをありのままに見て

くれた人が。

自分と同じくらいの年頃。背丈。ルビーのように紅い髪の毛。宵闇の中で落とした一本の針を探すように、その人の顔を思い出そうとして。

「駄目ね、わたし……あの子の顔、忘れちゃった……」

おぼろげな記憶は、結局、おぼろげなままだった。

もう一度、あの子に会えれば思い出せるかもしれない。でも、そのときわたしはいつたい何を話そうとするのだろうか。

本当のわたしって何???

本当のわたしは何を考えて生きてきたの???

本当のわたしってきれいに見える???

本当のわたしじゃ駄目だったの???

鏡に向かってため息をつく。

「……もう、飽きちゃったよ」

少女は血の色をしたルビーを嵌め込んだティアラを外すと、化粧台の引き出しにしまった。

こんな無意味な問いかけを続けるのは、もう飽き飽きだ。

答えてくれる者など、誰もいないというのに。

「おやすみ、シエリア」

少女は鏡に映る自分に手を振ると、天蓋の付いたベッドへ歩いた。わたしは今日も夢を見ることはないだろう。

鏡の中の『シエリア・ローズ・ブラッドレイ』が笑っていたから。彼女が笑顔なら、鏡の外の自分が本当に笑える日はやって来ないのだ。

それは決して諦めなどではなく、冷静な分析から導かれる現実そのものだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0816z/>

千年のヒストライズ

2011年12月3日00時48分発行